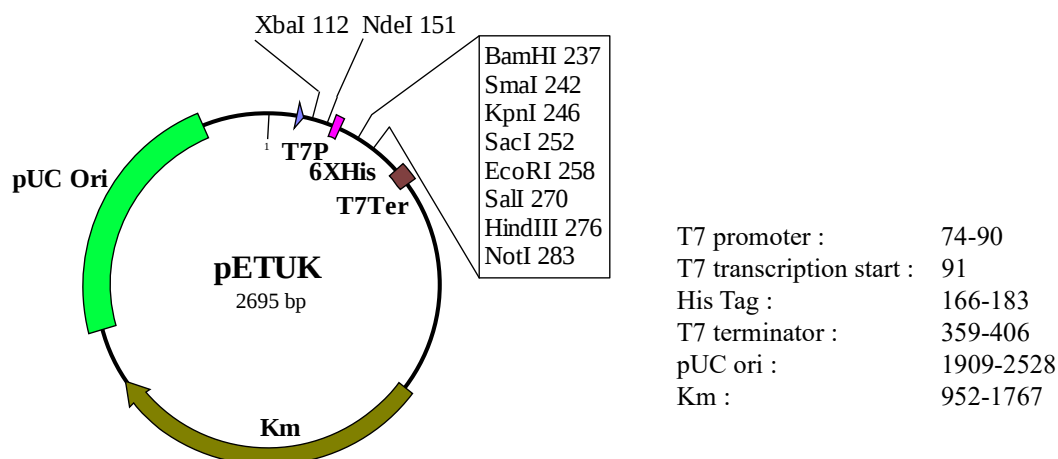


商品名： pET Expression vector pETUK
商品番号： DV220
容量： 15 μ g (TE バッファの塩を含むプラスミドの凍結乾燥物)
保存条件： -20°C

製品概要:

pETUK は高コピー数、カナマイシン耐性の T7 発現ベクターです。T7 発現系は最も強力な発現系の一つで、大腸菌 BL21 (DE3)株と組み合わせて広く利用されています。BL21(DE3)のゲノムには T7 RNA ポリメラーゼ遺伝子が挿入されており、これは lacUV5 プロモーターの制御下にあります。isopropyl- β -D-galactopyranoside (IPTG)の存在下で T7 RNA ポリメラーゼは発現し、pETUK の T7 プロモーターからの高レベルの転写を誘導します。弊社の取り扱い 6 種類の T7 発現ベクター中で、pETUK は毒性の無いタンパク質の高レベルでの発現に適しています。また、pETUK は大腸菌内で高いコピー数となるため、プラスミド精製に利点があります。

プラスミドマップ:



再溶解：

pETUK 凍結乾燥品を 15 μ l の滅菌水で溶解してください。1 μ g/ μ l プラスミド(1×TE バッファ)となります。溶解後は-20°C以下で保管してください。

T7 発現ベクターの特徴

弊社では 6 種類の T7 発現ベクターを取り扱っています。これらのベクターは同じマルチクローニングサイトをもち、それぞれ以下のような特徴を有しています:

	コピー数	レプリコン	耐性	用途
pETUA	高	pUC	アンピシリン	毒性の無いタンパク質
pETBA	中	pMB1	アンピシリン	一般的な発現
pETIA	中	pMB1	アンピシリン	lac リプレッサーによる厳密な制御
pETUK	高	pUC	カナマイシン	毒性の無いタンパク質
pETBK	中	pMB1	カナマイシン	一般的な発現
pETIK	中	pMB1	カナマイシン	lac リプレッサーによる厳密な制御

使用方法

| pETUK への遺伝子クローニング:

組み換えタンパク質を正しく発現させるために、目的の遺伝子を pETUK の N 末端ペプチドと同じフレームで繋ぐ必要があります。pETUK の開始コドンは下記マルチクローニングサイトで **ATG** で示されています。

pETUK を適切な制限酵素で完全に切断し、挿入遺伝子とのライゲーションに用いてください。使用する制限酵素が 1 つの場合、ベクターの脱リン酸化を推奨します。ライゲーションの方法については市販のライゲース等のプロトコルに従ってください。ライゲーション後の形質転換には発現用ではない大腸菌株(DH5α や JM109 等)を用いてください。得られたクローンはコロニーPCR、精製プラスミドの制限酵素処理等で遺伝子の挿入を確認してください。また、得られたプラスミドのシーケンス確認が推奨されます。

```

          T7 promoter                                XbaI
GATCCCGCGA AATTAAATACG ACTCACTATA GGGAGACCAC AACGGTTTCC CTCTAGAAAT 120
AspProAlaL ysLeuIleAr gLeuThrIle GlyArgProG lnArgPhePr oSerArgAsn
          NdeI                                6×His
AATTTTGTTT AACTTTAAGA AGGAGATATA CATATGCGGG GTTCTCATCA TCATCATCAT 180
AsnPheVal* **Leu***Gl uGlyAspIle HisMetArgG lySerHisHi sHisHisHis
          EK                                BamHI
CATGGTATGG CTAGCATGAC TGGTGGACAG CAAATGGGTC GGGACGATGA CGATAAGGAT
240
HisGlyMetA laSerMetTh rGlyGlyGln GlnMetGlyA rgAspAspAs pAspLysAsp
          KpnI                                EcoRI                                SalI                                NotI
CCCCGGGTAC CGAGCTCGAA TTCGATTTCG TCGACAAGCT TAGCGGCCGC CGTTTAATCC 300
          SmaI                                SacI                                HindIII
ProArgValP roSerSerAs nSerIleSer SerThrSerL euAlaAlaAl aVal***Ser

```

EK: Enterokinase recognition sequence (AspAspAspAspLys↓)

ATG: start codon

TAA: stop codon

| pETUK の配列

DNA 配列は弊社ウェブサイトで取得いただけます。



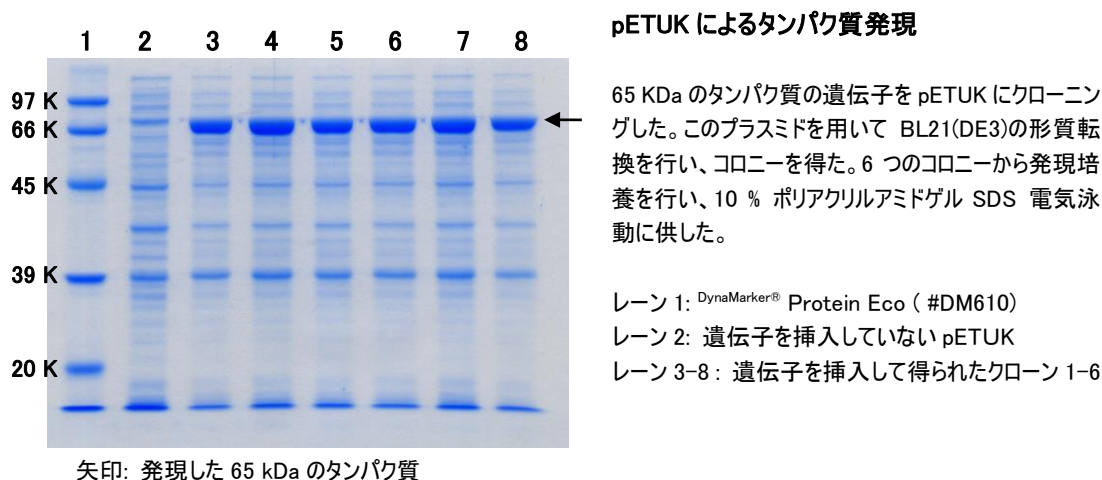
<https://www.biodynamics.co.jp/products/ex-pack/>

解析:

1. 菌体 (1 ml 培養液から集菌)を 200 μ l の 1 × PBS に懸濁する。
2. 一部 (例: 100 μ l) を等量の 2 × SDS サンプルバッファーと混合する。
3. 85°C で 5 分間加熱した後、10,000 g で 10 分間遠心する。
4. 上清 (例: 5–25 μ l)を SDS-PAGE で解析する*。

*ウェスタンブロッティングも目的タンパク質の発現を解析する上で有用です。

- ・ 2 × SDS sample buffer : 2% sodium dodecyl sulfate, 5% 2-mercaptoethanol, 20 % glycerol, 0.02% BPB, 62.5 mM Tris-HCl, pH6.8
- ・ 1 × PBS buffer.: 20 mM sodium phosphate, 150 mM sodium chloride, pH7.4



● 発現における注意点

1. T7 発現系は、強力な発現系であるため、IPTG 非誘導時でも低レベルの目的タンパク質の発現が起きます。この低レベルでの発現は、目的タンパク質が大腸菌に対して毒性を有する場合、問題となることがあります。その場合、非誘導時の発現を減らすために以下の方法が必要となることがあります。
 - a) pETUA, pETUK ではなく、コピー数の少ない pETBA, pETBK を使用する。
 - b) 厳密な発現の制御ができる pETIA, pETIK を使用する。
 - c) グルコース(0.5 – 1%)を含む液体培地や寒天培地を使用する*。
 *グルコースは *lacUV5* プロモーターからの転写を低下させることが知られています²⁾。
 - d) BL21(DE3)株の代わりに、BL21(DE3)pLysS 株を使用する*。
 *pLysS プラスミドにコードされる T7 リゾチームは T7 RNA ポリメラーゼに結合し、不活性化します³⁾。これにより、目的タンパク質の非誘導時の発現が低下します。
2. 一晚培養した BL21(DE3)菌液(0.5 ml)を LB 液体培地(10 ml)に加えて培養した際、OD₆₀₀ が 0.5 に達する迄に長時間(5 時間以上)を要する場合、目的のタンパク質が大腸菌に対して毒性を有する可能性があります。
3. BL21(DE3)菌体が IPTG による誘導後に溶ける場合、目的のタンパク質が大腸菌に対して毒性を有する可能性があります。

参考文献:

- 1) Studier, F.W. and Moffatt, B.A., *J. Mol. Biol.* 189 (1986) 113–130.
- 2) Moffatt, B.A. and Studier, F.W., *Cell* 49 (1987) 221–227
- 3) Pan, S. and Malcom, B.A., *BioTechniques* 29 (2000), 1234–1238

一般的な参考文献

Sambrook, J. and Russell, D.W. (2001) *Molecular Cloning: A Laboratory Manual*, 3rd ed., Cold Spring Harbor Laboratory Press, Cold Spring Harbor, NY.

関連製品:

DS255	DynaCompetent® Cells Zip BL21(DE3) ヒートショック不要の短時間操作
DS260	DynaCompetent® Cells BL21(DE3)pLysS
DS230	DynaCompetent® Cells JetGiga DH5 α 分注可能・迅速操作・高形質転換効率のクローニング用コンピテントセル お好みの容量に分注・再凍結して使用可能。
DS520	AllView PAGE Buffer® 泳動バッファーを本品に変えるとグラジエントゲルのような分離が可能。15 分の高速泳動。
DM660	DynaMarker® Protein MultiColor Stable II 4℃保存可能な着色済みタンパク質分子量マーカー
DS500	QuickBlue Staining Solution SDS-PAGE でのタンパク質染色試薬。洗浄・脱色を含めた染色全操作は約 90 分。
DS850 DS860	ONEPot Immunoassay Kit <OpenGUS Method> 精製タンパク質の定量に。 ELISA より簡単 / WB より短時間で定量性が高い 任意の抗体でタンパク質を測定できる 洗浄不要のイムノアッセイ構築キット